

○漢字の基本書体とその要素

漢字や仮名^{かな}の書体でよく用いられる代表的なものに明朝体^{みんちやうたい}とゴシック体^{たい}がある。また、文字を形作っている線や点を点画、または字画という。漢字の「永」には基本的な点画や筆づかいが含まれており、その8つの点画は「永字八法^{えいじはっぽう}」と呼ばれている。しかし、現代ではこのような書体でないことも多く、手書きや丸文字なども使われている。

・明朝体

中国の明^{みん}の時代に様式化された書体。特徴は、(1)横画が細く、縦画が細い、(2)横画の右端や曲がり角に三角形の山形(ウロコという)がある、(3)はねたりはらったりする部分など、筆で描いた感じになっている、などである。

※最近は読みやすさなどの観点から、(1)の特徴が無くなってきている。

・ゴシック体

全ての点画が同じ太さでデザインされている。このような書体はフランス語で「サンセリフ」と呼ばれている。サンセリフとは、セリフ(ウロコ)がないという意味である。このプリントのように、強調される部分に使われることがある。

明朝体

尚学館へようこそ！

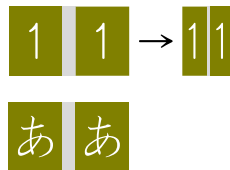
ゴシック体

尚学館へようこそ！

○その他

・漢字と仮名の場合、バランスをとるために漢字よりも仮名を小さく書くことがある。

・バランスよく文字を並べることを字配り(スペーシング)という。たとえば数字の「1」を仮名の「あ」の文字の幅と同じにすると数字の「1」の間隔があいてしまう。文字は大きさや形がバラバラなので、見た目のバランスを考えて文字を配置する。



・アルファベット「L」の小文字「l」, 「i」の大文字「I」, アラビア数字「1」や、アルファベット「O」とアラビア数字「0」などは非常に見分けが付きにくい。これらをより見分けやすくし、人の目の見え方などを考えて、読みやすくした書体をユニバーサルデザインフォント(UD フォント)という。

○それぞれの点画の名前(教科書参考)

